

様式第1号（閲覧規程第2条）

令和2年3月27日

宮古市議会議長 古 館 章 秀 様

宮古市議会議員 熊 坂 伸 子



令和元年度宮古市議会政務活動費収支報告書

宮古市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、令和元年度の政務活動費の収支を別紙のとおり提出します。



別紙

1 収入

政務活動費 150,000円

2 支出

(単位：円)

科目	金額	備考
研究研修費	—	
調査旅費	45,604	【行政視察】廃校を利用した市民活動拠点の運営について 他
資料作成費	—	
資料購入費	—	
広報費	—	
広聴費	—	
その他の経費	—	
合計	45,604	

注：備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

3 残額 104,396円

## 宮古市議会政務活動費支払明細書

項目	内容	金額	摘要
調査旅費	(1) 【行政視察】 ・廃校を利用した市民活動拠点の運営について (8/1 北海道帯広市 市民活動プラザ六中) ・観光インバウンドの取り組みについて (8/2 北海道ニセコ町) ・宮古・室蘭フェリー航路の現状と課題について (8/3 北海道室蘭市)		
	交通費 フェリー運賃 (八戸～苫小牧)	14,166 円	按分による支出①
	交通費 フェリー運賃 (室蘭～宮古)	6,116 円	按分による支出②
	レンタカー代 (7/31～8/3 宮古→北海道内→宮古)	7,830 円	按分による支出③
	有料道路通行料金 (苫小牧東本線～夕張)	313 円	按分による支出④
	有料道路通行料金 (夕張～帯広)	420 円	按分による支出⑤
	有料道路通行料金 (音更帯広～千歳東)	610 円	按分による支出⑥
	有料道路通行料金 (伊達～室蘭)	83 円	按分による支出⑦
	燃料代 ガソリン レンタカー分 (8/1 北海道内給油)	1,081 円	按分による支出⑧
	燃料代 ガソリン レンタカー分 (8/3 宮古市内給油)	1,135 円	按分による支出⑨
	宿泊費 (8/1 ニセコ町) ※税・サービス料含む	11,250 円	按分による支出⑩
	食事代 (8/1 夕食)	1,700 円	
	食事代 (8/2 昼食)	500 円	
	貸し毛布代 (8/2 フェリー船内)	400 円	按分による支出⑪
	調査旅費 計	45,604 円	
合 計		45,604 円	

項目	調査旅費	個別支払	1の1枚目
(1) 【行政視察】 廃校を利用した市民活動拠点の運営について 他			
領収書等貼付欄			

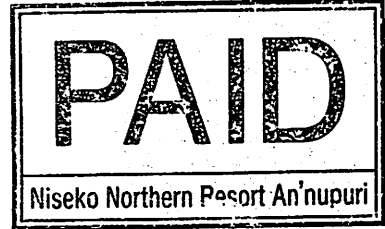
領 収 証

RECEIPT

RECEIPT No 008877

DATE: 2019-08-02

お名前 RECEIVED FROM: クマサカ 1ゴコ 様



金額 THE SUM OF : ¥1,700-

但し IN PAYMENT OF : クラサ代として

請求書番号 STATEMENT NO : 8/1 夕食代

株式会社 ホテルアンヌプリ

領収者署名 SIGNED BY :

現金 CASH	✓
小切手 CHECK	
振込 BANK	
その他 OTHER	

〒048-1511 北海道虻田郡ニセコ町字ニセコ480番地1 ☎(0136)58-3311(代表)

だてのてんぷら

伊達市観光物産館内  
TEL・FAX 0142-22-7277

2019年 8月 2日 12:31  
232470

トッピング	100
そば	400
内税対象計	¥500
内税 8.0%	(¥37)
合計	¥500
お預り	¥1,000
お釣	¥500

8/2 夕食代

## 按分による支出額一覧

項目	調査旅費						
【行政視察】 廃校を利用した市民活動拠点の運営について 他							
参加者：橋本久夫 西村昭二 熊坂伸子 <u>佐々木重勝※</u> 古館章秀 工藤小百合 計6名							
参加者別 按分額 <span style="float: right;">単位：円</span>							
項目	領収書の額	橋本	西村	熊坂	佐々木	古館	工藤
①	85,000	14,166	14,166	14,166	14,170	14,166	14,166
②	36,700	6,116	6,116	6,116	6,120	6,116	6,116
③	46,980	7,830	7,830	7,830	7,830	7,830	7,830
④	1,880	313	313	313	315	313	313
⑤	2,520	420	420	420	420	420	420
⑥	3,660	610	610	610	610	610	610
⑦	500	83	83	83	85	83	83
⑧	6,486	1,081	1,081	1,081	1,081	1,081	1,081
⑨	6,811	1,135	1,135	1,135	1,136	1,135	1,135
⑩	67,500	11,250	11,250	11,250	11,250	11,250	11,250
⑪	2,400	400	400	400	400	400	400

注) ※印の参加者が会計責任者。領収書など証拠書類の原本は、会計責任者の収支報告書に添付。

政務活動費による報告書（行政視察）

令和1年12月4日

宮古市議会議員 古館章秀 様

宮古市議会議員 熊坂伸子



政務活動費による行政視察報告書

政務活動費により行政視察を行いましたので、下記の通り報告します。

記

- 1 視察月日 令和1年7月31日(水)～8月3日(土)
- 2 視察先
  - (1) 8月1日 北海道帯広市 市民活動プラザ六中(帯広市東11条9-1)
  - (2) 8月2日 北海道ニセコ町 商工観光課
  - (3) 8月2日 北海道室蘭市 港湾政策課
- 3 視察事項
  - (1) 廃校を活用した市民活動拠点の運営について
  - (2) 観光インバウンドの取り組みについて
  - (3) 宮古・室蘭フェリー航路の現状と課題について

参加者 古館章秀 橋本久夫 佐々木重勝 工藤小百合 西村昭二 熊坂伸子

説明者 ①特定非営利活動法人 十勝障がい者支援センター理事長 十勝障がい者総合相談支援センター所長 門屋充郎氏  
②ニセコ町 商工観光課長 福村一広氏  
企画環境課広報係長 大野百恵氏  
③室蘭市議会 小田中稔議長 柏木隆寿副議長 早川昇三議員 金濱元一議員 佐賀孝志事務局長 岩間光城議事課長  
室蘭市 青山剛市長 鈴木崇弘副市長  
港湾部 港湾政策課 西館武志主幹 後藤卓之振興係長  
教育委員会 国枝信教育長

■市民活動プラザ六中の概要

旧帯広第六中学校は歴史ある名門校であり、旧帯広第三中学校との統合と六中の閉校が



決まった時には多くの市民から、旧六中施設の利用を望む声が寄せられた。その声を受けて、旧六中跡施設は様々な障害をもつ人々やその支援団体が利用できる複合型の福祉空間とすること、そして地域住民が支えあいのまちづくりをしていくための拠点施設として活用することとなり現在のプラザ六中の形となった。

現在、市民活動プラザ六中は、帯広市の委託を受けて、十勝障がい者支援センター、ふれあいデジタル工房、とかち共同作業所の3団体により構成される「市民活動プラザ六中管理運営コンソーシアム」が管理運営を行っている。

入居する事業所・団体によって構成される「市民活動プラザ六中施設利用者連絡会」と帯広市の「ソフト事業推進室」が各事業所・団体・利用者・地域住民等との情報共有と連携を図っている。

プラザ六中には3つの役割がある。

1つは、障害を持った方と一緒に働く場・活動する場であること。

2つ目は、プラザ六中周辺にお住まいの地域住民の皆さんが、互いに支えあえる場となること。

3つ目は、地域の防災・減災拠点としての機能である。

これらの役割を果たすために様々な活動が行われている。例えば「キッチンプロジェクト」は六中の厨房を使ってお昼ごはんを提供する活動だが、福祉作業所、主婦グループ、ボランティア団体、高校クッキングクラブの生徒等が参加している。また喫茶室「ロックズカフェ」では、近所に暮らす六中サポーターがボランティア運営をしている。だれもが利用でき、だれもが支え手になることが出来る施設となっている。

## ■ニセコ町の概要と観光の現状

ニセコ町は人口約5千人、うち外国人は300人弱である。

最大時の人口は約8千人であったが平成の前半には4千500~600人まで落ち込んだ。平成18年頃から外国人居住者が増え、平成30年には人口5,000人超まで回復してきた。

平成30年度は観光客入込数が167万人であった。一番多いのは1月で25万人。冬季は外国人（主に中国・韓国）観光客が多い。夏は8月が19万人だが、こちらは国内客が多い。

倶知安町、ニセコ町、蘭越町の3町で構成されるニセコ観光圏全体の年間観光客は平成29年度で65万3千人。もっとも多いのはオーストラリアからで12万3千人、次いで香港11万6千人、中国7万7千人、シンガポール6万5千人等となっている。

このように外国人観光客に人気があるのには、主に3つの要因がある。1つは恵まれた雪と優れたロケーション。2つ目はニセコルールが存在。3つ目は外国人にとって魅力ある未開発のエリアの存在とSNSによる情報の拡散である。

ニセコルールとは滑る自由を尊重し、地域はその安全に重大な関心を持つというコンセプトで、誰もが安全に幸山を楽しむためのルールである。

ニセコ町は「小さな世界都市」を目指してまちづくりをすすめてきた。町立ニセコ高校では観光リゾートコースの4年生が海外で研修を行う。マレーシア・クアラルンプールへの派遣、英語研修、ホテル研修等を行っている。また、北海道インターナショナルスクールニセコ分校の誘致も行っている。

ニセコ町は環境にも配慮したまちづくりを行い、平成26年には環境モデル都市に選定された。また平成30年にはSDGs未来都市に選定されている。このような取り組みの中、商工会の会員数が平成30年度で過去最高となり、有効求人倍率も上がり続けている。

今後は自然と共生したリゾート開発を進め、新しいニセコスタイルを提案してSDGsの達成に挑戦する。

#### ■室蘭市の概要とフェリー航路

室蘭市は人口約8万4千人。北海道南西部に位置し南東は太平洋に面している。かつては、大間、大畑、青森、八戸、直江津、大洗等とフェリー航路で結ばれ、港は活況を呈していたが、平成20年に室蘭・青森間の就航が終了して以来10年間、フェリー航路が無い時代が続いた。しかしフェリー関連の主要施設は健在であり、室蘭市民にはフェリーが多数就航していた頃の町の賑わいが、鮮明に記憶されている。

人口減少、消費減少が進行する中、フェリー航路の復活に大きな期待を寄せている。室蘭市は、既存施設を活用しながらも、数億円を投資してフェリー関連施設の補修・整備を行った。物流を始め観光関連の地元企業にも経済効果はあるが、それ以上に市民の期待は大きい。

室蘭市は宮・蘭フェリーの継続が重要であると捉えている。そしてそのためには、航路の成立条件を分析し、その条件を満たし続ける取り組みが必要である。すなわち、道央圏と首都圏ルートは海上輸送コストが陸上輸送コストより小さいことから室蘭港よりは苫小牧港利用が有利である。しかし、ドライバーの休息时间確保という時代の要請や、高速道路料金不要と冬季安定性という要素が加わり、室蘭港有利の可能性が見えてきた。震災復興による社会資本整備の迅速化は、東北のみならず、北海道の航路開設の大きな要因ともなったのである。宮・蘭航路継続のためにこの3つの要素を強みとして流通関連企業に更にアピールしていくことが必要である。

#### 4 視察報告（所感等）

8月1日（木）

##### 「廃校を活用した市民活動拠点の運営について（帯広市）」

少子化の影響で近隣の中学校に統合され、廃校となることが決まった帯広第六中学校。学校は解体され、土地は売却される予定だったが、学校を愛する地元の人たちの手で、地域のみならず、広く帯広市全体の障がい福祉の拠点として、さらには地域住民の情報共有と連携の場として活用されている事例です。



そこには、元帯広市教育委員で、現在十勝障がい者支援センター理事長を務めておられる門屋充郎氏の第六中学校への誇りと愛情、そして障がい者福祉への篤い思い、さらには教育委員としての大きな力があったのだと感じました。

就労支援 B 型として障がい者の生きがいと経済力を向上させる機能を發揮しているだけでなく、地域の住民が集まり、自主的な活動を通して自立して繋がっていく機能、さらには、誰もが誰かの役に立つことで得られる充足感を育てる機能、そして、一人暮らしの高齢者にも低価格で心のこもった食事が提供され、食堂に行けば顔見知りの誰かとおしゃべりができる温かく嬉しい機能、そんな沢山の機能を持つ場所へと廃校舎が変貌を遂げていました。

翻って、宮古市の廃校舎の利活用はどうなっているのでしょうか。先ごろ5つの廃校舎が全国に売りに出されたばかりです。その前に地域の方々との十分な意見交換はあったのでしょうか。あるいは活動場所を探している地元の各種団体への利用の呼びかけはあったのでしょうか。今ひとつよく見えませんでした。廃校利用の枠を超えて、新たな市民の自治力を育てている帯広市のプラザ六中の取り組みを見せていただいて、そのような疑問が芽生えてきました。

働いている障がい者の方々の笑顔に癒され、ボランティアのお母さんたちの心づくしのひき肉カレーを昼食に頂いて、心も体も満たされた思いでプラザ六中の外に出たら、就労支援の登録をされておられる方々なのか、車椅子の青年が数名、玄関の外で談笑していました。その方々のさわやかで屈託のない笑顔が、施設の存在意義を如実に表しているようでした。

8月2日（金）

#### 「インバウンド観光について（ニセコ町）」

ニセコ町役場企画環境課長の福村一広さんからお話を伺いました。福村課長のお話で一番印象的だったのは、冬のニセコとそれ以外の季節のニセコは全く様相が異なるということです。人口約5000人のニセコ町ですが、そのうち外国人が約300人弱います。それが冬になると1500人にもなるということです。また、ホテルの宿泊料は通常は普通の値段ですが、冬季になると約4倍に跳ね上がります。それもこれも、すべて、ニセコに来る観光客のほとんどが冬のスキー客だからです。

スキー客の多くは外国からのお客ですが、一番多いのが季節が日本と反対のオーストラリアからのスキー客というのは頷けます。けれども意外だったのが第2位が香港、第3位が中国、次にシンガポール、台湾、韓国と続き、アジア圏のスキー客が想像以上に多いことです。日本でも一時大きなスキーブームがありましたが、現在は落ち着いている印象があります。アジア圏では今もこれほどスキー熱が高いとは思いませんでした。

スキー場として恵まれたロケーションと、素晴らしい雪質を十分に生かして冬のニセコは多くの観光客でにぎわいます。

近年では冬季以外のインバウンド観光にも力を入れ、それを担う人材を育てるための英語教育の充実や、国際交流員の活用などが盛んに行われています。驚いたことに、観光リゾートコースのあるニセコ高校は町立の高校です。岩手ではなかなか考えられませんが、北海道には市町村立の高校がいくつかあるとのこと。町が校舎を建て、道が教員を配置しています。ニセコ高校の学生はほとんどが町外から通っているということで、4年生でマレーシアやクアラルンプールでの海外研修もあります。

ニセコ町の人口は最大時には8,000人を数えましたが、平成の初めごろには4,500人まで減少しました。今では外国人の移住も含めて、微増に転じ、平成30年には5,000人を超えました。

視察を申し込んだ際に、条件として町内への宿泊や、町内の道の駅に立ち寄ること、町内の観光牧場に立ち寄ることなど、細かく指示がありましたが、そうやって経済の町内循環を積極的に促すことで、活性化を果たしてきたのだらうと思います。町が観光で成り立っていくということは、そういう努力の積み重ねの成果なのだと感じました。観光に対するまちの覚悟と積極性は、大いに参考にすべきだと思います。

#### 「宮蘭フェリー航路の現状と課題（室蘭市）」

フェリーで結ばれるというのはこういうことなのでしょう。これまであまり交流の無かった（と、私が感じていた）室蘭市ですが、フェリー航路が開通して1年、まるで古くからの姉妹都市の様なおもてなしぶりにまず感動しました。

港湾政策課主幹の西舘武志氏が主に説明してくださいましたが、その前に議長からもご挨拶がありました。

室蘭港のフェリーの歴史は古く、多い時には5つの航路が稼働していました。平成20年の室蘭・青森航路の終了後10年近くもフェリー航路がなく、フェリー航路があるのが当たり前だった室蘭市民にとって寂しさもひとしおだったそうです。したがって、昨年宮古とのフェリー航路が就航したことは、宮古市民の想像をはるかに超えた喜びだったようです。

宮古と違って、室蘭は港も市が管理していますので、フェリーによるまちの振興は、ひとえに室蘭市の手腕と努力にかかっています。そのことが宮古と室蘭の微妙な温度差につながっているのだと感じました。宮古市は室蘭市の積極的な姿勢に大いに学ばなければならないと思いました。

課題となっている物流面での利用拡大についても、客観的科学的な分析をしっかりとし、戦略を考えておられました。宮古市には三陸沿岸道路が全線開通すれば課題の多くが解決するかなのような楽観的な空気があるように思います。けれども西舘氏によれば、長年慣れ親しんだルートを変えることはドライバーにとってはなかなかハードルが高いことだということです。また、三陸沿岸道路では、前に遅い車がいた場合に追い越しをすることが難しく、そのこともドライバーに選択をためらわせる理由の一つだということでした。聞いてみればなるほどと思うことばかりですが、無料であることに加え、なんといっても冬

季の雪の少なさは大きなメリットです。西館主幹が指摘された通り、漫然とトラック協会に向けてメリットを説明するよりも、個々の事業所、個々のドライバーに直接アクセスして、三陸沿岸道路を試しに走っていただく取り組みをするのが、効果があるだろうと思います。三陸沿岸道路の完成後、厳冬期のトライアル運行を具体的に実現させていくことが、物流量の増大に向けて効果があると期待しています。

青山市長さんをはじめ、お忙しい中を、お時間を割いていただきました市の幹部の方々に心より感謝申し上げます。